



## 制御ハブ

---

- [デバイスのカスタマイズ](#) (1 ページ)
- [ワークスペース](#) を作って、サービスを追加します。 , [on page 3](#)
- [デバイス設定のロック](#) (4 ページ)
- [カレンダーサービスの追加](#) (5 ページ)
- [デジタルサイネージの設定](#) (5 ページ)
- [Control Hub](#) でデバイスデータを表示 (6 ページ)
- [新しいアクティベーションコードの生成](#) (7 ページ)

## デバイスのカスタマイズ

多くの設定と機能は、デフォルトで有効になっています。ただし、必要に応じてこれらの項目をカスタマイズすることができます。

## 単一のデバイスの機能を設定する

クラウドベースのすべての機能は、[こちら](#)から設定および制御されます。ニーズの変化に応じて、さまざまな機能を有効にすることができます。

### 手順

---

- ステップ 1 <https://admin.webex.com/>の顧客ビューから、**デバイス**に進みます。
  - ステップ 2 インベントリからデバイスを選択します。
  - ステップ 3 スクロールダウンして、**詳細設定**を選択します。
  - ステップ 4 機能を選択し、設定を行います。
  - ステップ 5 [適用 (Apply)] をクリックします。
  - ステップ 6 [閉じる (Close)] をクリックします。
-

## Cisco Webex Control Hub パラメータ

制御ハブからデバイスをカスタマイズして、ニーズに合わせてカスタマイズできます。



- (注) スタンバイを使用する場合は、次の制限事項に注意してください。
- スタンバイにはコンシューマ 電子制御 (CEC) が必要なので、デバイスを HDMI-CEC をサポートする表示ポートに接続します。
  - 一部の HDMI 表示画面は HDMI-CEC をサポートしますが、スタンバイには対応しません。
  - ディスプレイ画面とデバイス間に HMI スイッチを導入しないでください。
  - 表示画面でスタンバイを有効にして、制御ハブの機能設定を構成する必要がある場合があります。

スタンバイの詳細については、HDMI 表示画面のマニュアルを参照してください。

次の表では、制御ハブにあるこれらの機能について説明しています。この情報は、機能の設定時に使用します。

表 1: 機能とパラメータ

パラメータ	フィールドタイプ または選択肢	デフォルト	説明
DigitalSignageServer	—	—	カスタムコンテンツを表示画面に表示することができます。
言語	プルダウンメニュー	英語 (米国)	使用する言語を選択します。 コントロールハブを使用した Unified CM コールに展開する場合は、Cisco Unified Communications Manager (Unified CM) から言語を構成します。
メンテナンス > 再起動	なにもしない 再起動	なにもしない	デバイスを再起動します。デバイスの設定に影響せず、ログファイルが保持されます。
スタンバイ > コントロール	オン オフ	オン	ディスプレイが省電力モードに入るようにします。 <b>[オン (On)]</b> に設定すると、ディスプレイはアイドル時にスリープ状態になります。 ディスプレイ画面で HDMI-CEC がサポートされていない場合は、このパラメータを無効にします。 このパラメータでは、電話機の <b>設定 &gt; スタンバイ</b> パラメータは制御されません。

パラメータ	フィールドタイプ または選択肢	デフォルト	説明
スタンバイ > 遅延	スライダ	10 分	デバイスが入り、画面表示がオフになるまでの遅延を設定します。 スタンバイ モード デジタルサイネージを設定する場合、このパラメータは 120 分にリセットされます。
タイムゾーン	プルダウンメニュー	自動	現地時間帯を設定します。 コントロールハブを使用した Unified CM コールに対して導入する場合は、Unified CM からタイムゾーンを設定します。
UltrasoundVolume	スライダ	100	Cisco Webex アプリを含む会議室内のデバイスを検出します。  (注) このフィールドをデフォルト設定のままにすることを推奨します。

## ワークスペース を作って、サービスを追加します。

電話機をアクティブ化する前に、ワークスペース in 制御ハブを作成してアクティベーションコードを生成します。

### Procedure

- ステップ 1 <https://admin.webex.com> のカスタマービューから、ワークスペースに移動し、[ワークスペースの追加] をクリックします。
- ステップ 2 場所の名前を入力します。
- ステップ 3 (Optional) ワークスペース の容量、種類、またはアバターをカスタマイズします。
- ステップ 4 [次へ (Next) ] をクリックします。
- ステップ 5 **Cisco Webex Room デバイス** を選択し、[次へ] をクリックします。  
1 つのスペースに使用できるルームまたはデスクデバイスは 1 台のみです。
- ステップ 6 コール サービスを選択します。
  - 無料通話: コントロールハブを使用した Unified CM コールのこのオプションを選択します。Cisco Webex アプリとペアリングされた場合、または SIP を直接使用している場合、ユーザはコールを発信し、着信します。すべてのコールは、Webex では作成されず、オンプレミスのままになります。

- Cisco Webex Calling: Webex Callingの場合は、このオプションを選択します。番号は割り当てられません。

**ステップ7** (オプション)Tカレンダーサービスをオンに切り替えて、ユーザがそのデバイスで [One Button to Push] (OBTP) を使用できるようにします。[次へ (Next) ] をクリックします。

**ステップ8** カレンダーサービスをオンに切り替えた場合は、ルームデバイスのカレンダーメールボックスの電子メールアドレスを入力または貼り付けます。これは会議のスケジュールに使用される電子メールアドレスです。

- Google カレンダーでスケジュールされたデバイスの場合は、G Suites から Google リソースの電子メールアドレス ([カレンダー (Calendar) ]>[リソース (Resources) ]) を入力します。詳細については、「[カレンダーリソース \(会議室など\) について](#)」を参照してください。
- Microsoft Exchange または Office 365 でスケジュールされたデバイスの場合は、ルームメールボックスの電子メールアドレスを入力します。詳細については、「[ルームメールボックスの作成と管理](#)」を参照してください。

**ステップ9** [次へ (Next) ] をクリックします。

**ステップ10** 提供されているコードを使用して、デバイスをアクティブ化します。

## デバイス設定のロック

管理者は、制御ハブから電話機の設定の一部をロックできます。この方法は、設定にアクセスできるユーザを制限する優れた方法であり、重要なパラメータへの偶発的な変更を防ぐためです。

電話機からパラメータをロック解除することはできません。そのため、電話機を有効化するまでこのタスクを実行することはできません。

この機能により、次の設定がロックされます。

- 言語
- タイムゾーン
- デバイスの有効化
- ネットワークに接続されています
- リセット

パラメータはグループとしてロックされます。個々の設定をロックすることはできません。

工場出荷時の状態にリセットすると、電話機の設定がロック解除されます。

### 手順

- ステップ1 <https://admin.webex.com>のカスタマービューから、ワークスペースに移動し、ワークスペースを検索します。
- ステップ2 ワークスペースを選択し、デバイスに移動して、歯車アイコンをクリックします。
- ステップ3 タッチデバイスのロック設定をオンに切り替えます。
- ステップ4 [Done] をクリックします。

## カレンダーサービスの追加

カレンダー機能は、オンラインカレンダーをデバイスと統合するため、今後の Webex ミーティングを確認できます。ほとんどの人は導入時にこのサービスを設定しますが、後で追加できます。

### 手順

- ステップ1 <https://admin.webex.com>のカスタマービューから、ワークスペースに移動して、ワークスペースを選択します。
- ステップ2 [編集 (Edit) ] をクリックします。
- ステップ3 カレンダーサービスをオンに切り替えて、ユーザがそのデバイスで [One Button to Push] (OBTP) を使用できるようにします。[次へ (Next) ] をクリックします。
- ステップ4 カレンダーの電子メールアドレスを入力します。
  - Google カレンダーの場合は、G スイートから Google リソースの電子メールアドレスを入力します (カレンダー > リソース)。
  - Microsoft Exchange または Office 365 の場合は、ルームメールボックスの電子メールアドレスを入力します。
- ステップ5 [保存 (Save) ] をクリックします。

## デジタルサイネージの設定

デジタルサイネージを使用すると、アイドル状態のとき、デバイスにカスタムコンテンツを表示することができます。広告コンテンツを表示してブランドを宣伝できますが、訪問者や社内従業員の発表や情報も表示できます。

イベントモードは、数分間の非アクティブ状態の後に発生します。会議中に画像が表示されない、画面が共有されない、カレンダーの予定されたカレンダーイベントが表示されません。

次の仕様に注意してください。

- 最大解像度は 1920x1080 です。アップロードした画像が大きい場合は、AppSpace によってサイズが変更されます。
- サポートされている静的イメージファイル形式は .png と .jpeg です。



(注) 画面表示設定は、デジタル信号の画像に影響を与えます。静止画像がゆがんでいるか画質が悪い場合は、テレビの表示設定を変更します。例えば、一部のディスプレイメーカーでは、**鮮明度**を低く設定したり、**画像モード**を**コンピュータ**または**同等**の形式に変更したりすることができます。詳細については、TV に付属しているマニュアルを参照してください。

デジタル信号を設定すると、次のスタンバイ設定が変更されます。

- **スタンバイ > コントロール** がオンにリセットされます。
- **スタンバイ > 遅延** は 120 分とスタンバイ モードにリセットされます。これは、デバイスがスタンバイ モードに入るまでの遅延です。

HTML5 はサポートされません。

詳細については、以下のデジタル信号のための AppSpace のドキュメントを参照してください。  
<https://docs.appspace.com/latest/how-to/configure-wallpaper-for-cisco-webex-share/>

始める前に

AppSpace の管理者アカウントと、AppSpace チャンネル用の HTTP URL が必要です。

手順

- ステップ 1 <https://admin.webex.com/>の顧客ビューから、**デバイス**に進みます。
- ステップ 2 インベントリからデバイスを選択して、**詳細設定**を開きます。
- ステップ 3 **DigitalSignageServer**を選択します。
- ステップ 4 フィールドにAppSpace URLを入力します。
- ステップ 5 [適用 (Apply) ]をクリックします。

## Control Hub でデバイスデータを表示

デバイスの使用率や機能の使用状況など、制御ハブの分析ツールを使用してデバイスのデータを表示できます。この情報を使用して、デバイスが使用されている頻度、またはどのような機能がユーザに人気があるかを確認します。

### 手順

---

- ステップ1 <https://admin.webex.com> の顧客ビューから、**分析**に移動します。
  - ステップ2 [デバイス (Devices) ] をクリックします。
  - ステップ3 [デバイスの種類] ドロップダウン リストからデバイスを選択します。
- 

## 新しいアクティベーションコードの生成

導入中に制御ハブでワークスペースを作成すると、アクティベーションコードが生成されます。ただし、コードの有効期限は7日後です。

### 手順

---

- ステップ1 <https://admin.webex.com> の顧客ビューから、**ワークスペース**に移動します。
  - ステップ2 デバイスに関連付けられているワークスペースを検索して、選択します。
  - ステップ3 [アクティベーションコードの生成 (**Generate Activation Code**) ] をクリックします。  
コンピュータ画面にコードが表示されます。
  - ステップ4 デバイスにアクティベーション コードを入力します。
-

